

1980年12月4日(木)

(19)

学校夜間宿泊回数12回(仮称)金ヶ崎夜間学校

12.4 今日も晴れで、書類の整理と宿泊一覧表を参考する「その3」

負担金はどのくらいかかる?

正月が田の前に近づいてきて、向こ

なくあわただしくなってきました。

金ヶ崎で暮らす我々田舎労働者にとって、正月と言っても大したことはありませんが、仕事だけは確実になくなるので、ある程度の金は稼いでおかなくてはなりません。

それだけに、各人各様、正月のシニヤ方を胸に秘めながら、仕事に精出ししていること思います。

今夜の夜間学校は、「人夫出しシリーズ」の3回目です。

師走に入つて、仕事を選ば余中つもないのが実際ですが、今回は「負担金」について話し合いたいと思います。

こんな思には、おそらく多くの仲間が持つていることと思います。

酒でウサをはらすのも結構ですが、それをこの思いや、考えてることを出し合つ中で、よし、何とかしてやろうとしての3回目です。

年末のひと夜、「臺の家」喫茶室と共に、乗じてクリスマスをするしよう!

朝早くからセンターに出で仕事をこがし、薄暗くなる頃釜に帰ってきて、もうう出面は、ほんのわずかでは、金での値うちははかれませんが、正直なところ、自分の値うちはこれだけしかなりのかと、思うとやりきれなくなります。

12月18日「越冬と病気」

病気をかかえている人にとって、冬を乗り切るのは大変なことだと思います。年末から始まる越冬斗争でも、病気は主要なテーマのひとつです。越冬斗争との関係において、病気・それもさまざまの病気の対処について考えました」と思ひます。

12月24日 楽しく「クリスマス」(予定)

秋には、ハイキングも計画しましたが残念ながら雨で中止になりました。夜間学校では、日常のいろんな問題をテーマに語してきましたが、樂しいこともやううとけ前からの念願でした。年末のひと夜、「臺の家」喫茶室と共に、乗じてクリスマスをするしよう!

「夜間学校」

「これからのお予定」

【仮称】金ヶ崎夜間学校二年次 第7回報告テロク「越冬に向かって」

(11月20日)

「あすはどうなるかわからん」とつと声を出していく言ふう

「あれらる前に考え方!!

とかしこかんといかん。ヒーラニヒガ
みんなで確認されました。

「仕事ができ、こ
心の安定があれば」

と話が続きました。次回は越冬について
どうと声を出して具体的な方法を出して
いかんといかんということ一致して、
時間をオーバーして終りました。

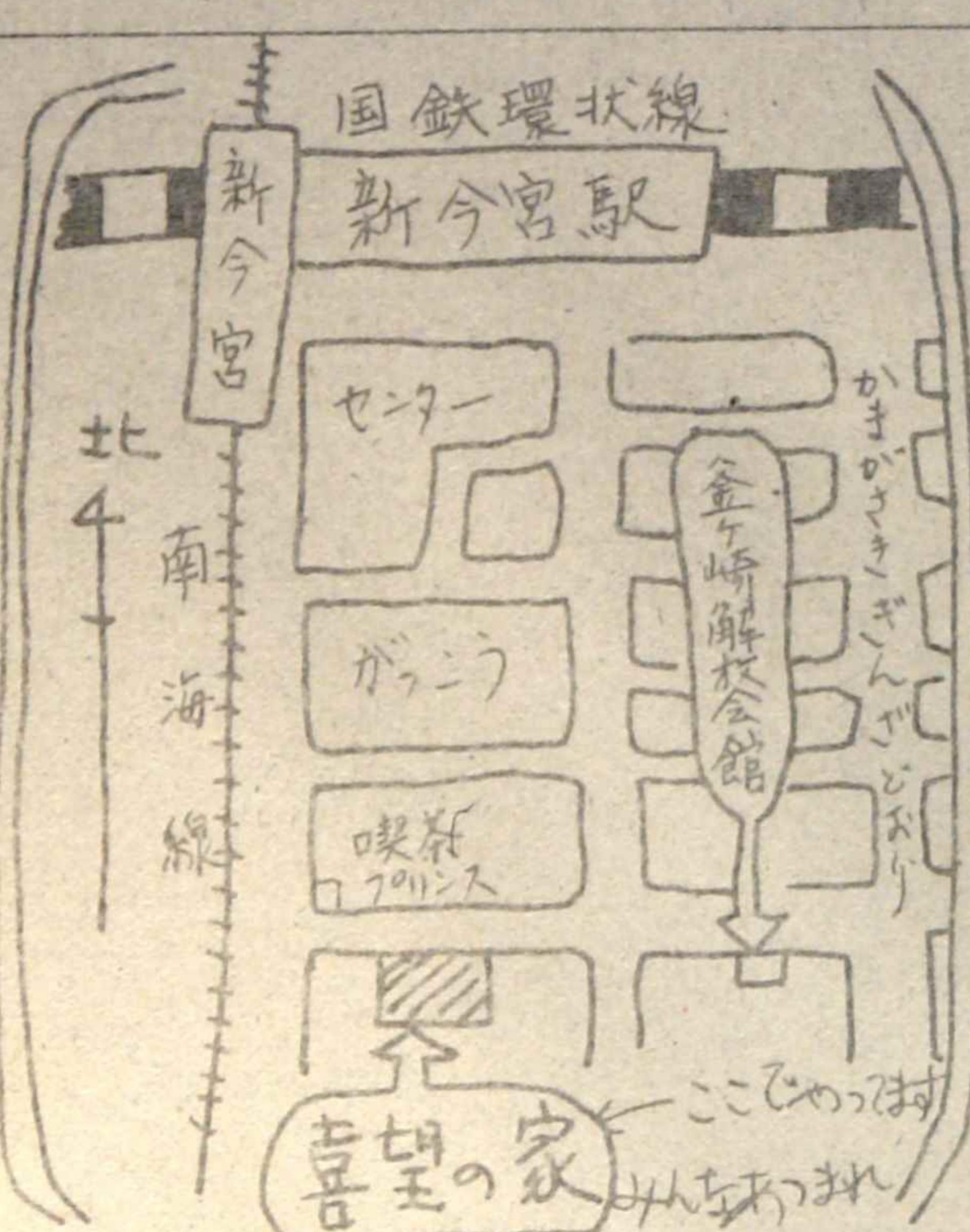
すきてもいかん。「みんなおとなしすぎ
る。とつと声を出していかんといかん。
の呼びかけに二十人が前回の夜間に山
学校に集まりました。毎年三百人も
の行旅病死者を出している金ヶ崎で
これから迫ってくる冬にどう立ち向む
つたらいいか語りあいました。昨年

の越冬の統計では、正月休みの間に市
の無料宿泊所があるのに、青カン
都や炊き出しの利用者が多め。(例え
ば元日に青力二者二三一人、炊き出
し二五〇人)。この統計につれて、
酒を飲んでのたうちまわつているも
のといるんじゃないか。そんなもん
は助けんといいやろ」という声が
あります。そんなの自分の問題や、助け
あうにも難しいことが多めとも。

しかし今は元気でも明日は、青力
にして死んでいくのが自分かも知れ
んのや」と老いたら死ぬ前になん
かして死んでいくのが自分がも知れ
ある。表面だけではなく裏をよくみない

のようです。「酒はいかんといった
て口心の安定感がなくなつたときは飲
みたい。自分が弱いとわかつていても、
目標がつきしむないと一杯やつてしま
う。限界が難しい。それができる人
は大いに飲んでいいだろ。悲しいと
き、うれしいときくにしても、どうつ酒
だけ悩んでいます。とせつじつな発言
がありました。ほんとに仕事をしたい
ときには「はつらう」とことです。

「とつと深いところに根がある」



「みんながつくるみんなのひろば」
【「(仮称)金ヶ崎夜間学校】

運営委員会準備会

金ヶ崎喜望の家内 647-3946
(毎週木曜日夜七時から九時の間に)

とつと生まれたときからの人間関係まで
たどりていかないと……。でも甘え
すぎてもいかん。「みんなおとなしすぎ
る。とつと声を出していかんといかん。
と話が続きました。次回は越冬について
どうと声を出して具体的な方法を出して
いかんといかんということ一致して、
時間をオーバーして終りました。